ご存じありませんか

中国からの未帰還者

わが国の未帰還者は、戦後二十八年を経た今日でも、数多くの人々が中国に残留を余儀なくされています。

これらの戦争犠牲者の中には、未だに消息不明の人々がおり、また消息が判明していても、県や市町村に届出がされていないものがあります。

また、死亡処理、（本県関係「殉難者名簿」その他）あるいは生死の確認をされずに死亡扱いとなった（次に掲げる本県関係「戦時死亡宣告者名簿」による中国関係）ものの中で、関係者からその生死の再確認を要望されるものも相当数あると思われます。

つきましては、これらに該当する人々につきなんらかの消息（氏名、生年月日、性別、本籍地、住所、最終消息……氏名だけでもよい。その留守家族、または遺族の氏名、現住所など）をご存知の方は、市・県または高知県未帰還者等援護対策促進協議会（高知市丸の内一丁目二の二十、高知県世話課調査係、電話〇八八八―二三―一一一一、内線二三七、へできるだけ早くご連絡ください。

高知県出身

戦時死亡宣告者

▼南国市
原　鈴子
和田千恵
和田　正
遠藤三百一
上村　修
岡上和晖
石川千代
藤本花栄
吉良雅恵

▼高知市
深田浅治、坪内節、宮崎達蔡、田所正治、市原和雄、市原将、前川玉枝、浜田正幸、竹村高茂、嶋川ヨリ子、竹内土太郎、田中耕吉、前田春子、山岡広、仲沢満男、中西岩樹、岩崎鼎、山崎芳馬、山崎章子、

▼室戸市
松沢孝男、安岡慶一、黒岩郷子、黒岩真奈美、黒岩昭克、松本祐九郎、

▼安芸市
岡村善次郎、小松邦雄、小松連、小松重見、森崎英、森崎亀吉、

▼土佐市
堅田正範、片岡千代子、大植寛、下元美恵子、山本政尾、

▼須崎市
谷脇茂子、谷実、田中信子、田中直恵、大崎富美恵、

▼中村市
杉本次男、山下一豊、間崎茂明、永野幸子、永野俊夫、植田豊茂、弘田徳明、

▼宿毛市
入本寿明、山口政彦、岡野徹男、高屋千秋、

▼奈半利町
山中茂久壱、黒岩兼好、

▼馬路村
久武禎一、

▼芸西村
岡村富功録、岡村真萩

▼夜須町
宗円春茂、

▼土佐山田町
池上清、公文典子、半田行盛、半田徳美、宮地光雄

▼赤岡町
沖田里見

▼大正町
田辺亀治、山田信重、山田鹿雄、山田利男、

▼大方町
植田昭

▼大月町
増本邦雄、

▼十和村
芝安恵、平野豊蔚、川上花子、

▼西土佐村
麻田勇、中西ハツ子、武内俊子、土居象二郎、岡崎荒助、中岡正勝、中岡勝喜、浦宗国三郎、浦宗久寿江、井上徳江、中平ツナ、

《福祉事務所社会係》

ガンにもいろいろありますが、日本人の場合は男女とも胃ガンが圧倒的に多く、つぎに男性では肺ガン、女性では子宮ガンが多くあります。

ガンは、不治の病気として恐れられてきましたが、今ではちがいます。

ガンが表面にとどまっているうちに発見し、手術をすればそのほとんどがなおります。

発見がおくれればおくれるほど、ほかの力所にも飛火してなおりにくくなります。

ただ、早期のガンには多くの場合症状がありませんので、定期的に健康診断を受けることが必要です。

できれば年二回が理想的ですが、少なくとも年一回は受けることが大切です。

▼ガンの危険信号八カ条

1.胃の具合がわるく、食欲がなく好みが変ったりしないか（胃ガン）

2.おりものや不正出血はないか（子宮ガン）

3.乳房のなかにシコリはないか（乳ガン）

4.のみこむときに、つかえることはないか（食道ガン）

5.便に血や粘液がまじったりしないか（大腸ガン、直腸ガン）

6.セキが続いたり、タンに血がまじったり、声がかすれたりしないか（肺ガン、喉頭ガン）

7.なおりにくい潰瘍（かいよう）はないか（舌ガン、皮膚ガン）

8.尿の出がわるかったり、血がまじったりしないか（腎臓ガン、膀胱ガン、前立腺ガン）

このような症状があったら、直ちに診てもらって、ガンでないことを確かめておきましょう。

久武巌、

▼物部村
久保清志、山中麻光、

▼本山町
谷禧生、北村楠衛、

▼大豊町
三谷義博、下村喜代香、吉村春雪、

▼土佐町
和田春美、横川マサノ、

▼伊野町
久川定雄、橋村豊重、伊藤寄香西森斉、西森喜美子、

▼春野町
山崎獅子雄、徳能茂、

▼吾川村
上主俊幸、上村みよし、竹内光義、前野里義、

▼吾北村
伊藤源

▼中土佐町
中沢伊勢松

▼窪川町
谷村百栄、谷村栄美子、谷村栄子、谷村征一、栄田友次、浜田克子、竹添ナヨ、西岡美代子、西村正一郎、田村武子、中村美知子、

▼日高村
谷本みや、森下半、森下初野、

▼葉山村
大崎義麻、下元辰夫、高野タマラ、高野淑子、

▼東津野村
戸田満明、戸田満佐子、戸田良夫、小笠原久雄、

▼梼原町

共同募金

たすけあいの輪を広げよう

先進国では共同募金に「あなたの一日分を」といわれています。一年間のうちの一日分を共同募金に寄附して、お互いの住む社会への恩返しをし残りの三百六十四日を自分の生活のためにするということです。

ことしも、ぜひ年に一度の共同募金へみんなの善意ををおよせください。

今年の目標額　二百十万円

昨年度は南国市で百八十四万五千円の募金が集まり南国市へ配分を受けた額は、三百五十万二千円でした。

この金額は、次のように配分しました。

市の社会福祉協議会へ　二十六万一千円

市の十七地区社協へ　六十二万一千円

私立浜改田保育所へ　二万円

子供の遊び場へ　七万九千円

ねたきり老人へ　十四万八千円

交通遺児・母子世帯へ　二万七千円

火災見舞金へ　千円

重症心身児・土佐希望の家へ　百七十一万六千円

特別養護老人ホーム・土佐清風園へ　五十二万五千円

土佐清風会へ　十万円

《社会福祉協議会》

献血で真の助け合い

真の助け合いのありがたさというものは、平穏無事なときにはわかりにくいものである。極端ないい方をすれば、お互いに苦境に立たされたときに、始めてそのありがたさを知るのである。

平素、さも当然のことのように受けとめている太陽が空気がもし突然なくなれば、たちまちにして生物の存続があやぶまれるであろう、それは想像に過ぎないが、しかし水については現実におこりうる。雨が降らなければ飲料水に困るし、作物の植付けもできず、時には紛争の原因ともなる。現に私達は年に何回かは水不足で節水を強いられる時期を経験する。そんな時こそ水のありがたさというものが身にしみてわかる。

平穏無事なときは、多かれ少なかれ友情も利害関係に結びつくが寸秒の後の生命の保証のない弾丸の下ではもはや利害関係はない。あるものは真の友情であり助けあいであるこれが本当の戦友であり涙のでるほどありがたいものであった。献血もまた同じである。平穏無事なときには献血のありがたさはわからない。血液のありがたさはやはり血液の必要な当事者でなければ真のありがたさはわからないはずである。

献血をする者の中には万一の場合のことを考えて献血をしてくださる方々もあろうが、平穏無事なときにはやはり心の奥底に損得勘定が走り、なんだか損をしたような気持もありうる。

しかし仮に献血するのみで血液の必要がなければ、それは健康な証拠であり最大の幸ではないだろうか。

今日のような経済情勢の激しい時代に、誰一人として利益を追求しない者はない。むしろ当然のことである。

だからこそ利益を追求したい心のふれあう真の助け合い精神がほしいものである。

人間が万物の霊長であるだけに。